

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 6 年 1 2 月調査結果 - -

( 平成 1 6 年 1 2 月 2 7 日 )

調査期間：平成 1 6 年 1 2 月 1 4 日～ 2 0 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 9 6 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 6 卸売業 2 3 4  
小売業 7 4 2 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

### D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成16年12月調査結果のポイント】

### 業況D Iは5カ月連続でマイナス幅が拡大、景況減速感が鮮明に

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（35.0）よりマイナス幅が0.9ポイント拡大して35.9となり、5カ月連続でマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、サービスを除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も拡大した。製造業を中心に引き続き業況は好調との声はあるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景気の先行き悪化を懸念する声が寄せられている。

【建設業】では、「水害復旧工事が増加」（土木工事）との声はあるものの、「年末を迎えても受注減が続き、冬季の仕事量も皆無に近く、今後さらに厳しい経営環境になる」（建築工事）「受注が少なく人員整理が進んでいる」（建築工事）と引き続き厳しい状況を訴える声や、「燃料、建設資材価格の高騰により、採算が悪化」（一般工事）と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「前月に続き受注は順調」（自動車、同附属品）「概して仕事量は多く、操業度も高水準で維持されており安定した状態」（金属加工機械）との声の一方、「原材料の値上がり傾向は根強いが、製品への転嫁はできていない」（有機化学製品）と、引き続き仕入コスト上昇を訴える声や、「業況改善は早くもピークを迎えた感じ」（金属加工機械）「半導体市場は調整局面を迎え急激に環境が変化しており、先行きも供給過剰な状況で市場の大きな成長もなく、一層厳しい状況が予想される」（電子部品）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「購買意欲が少しずつ出てきている」（農畜産水産物）「台風の影響で野菜、果実とも入荷量が減少していたが、果実を除き順調に回復し、価格も例年並みで移行している」（農畜産水産物）といった声の一方、「売上はほぼ前年並みで推移しているが、採算、資金繰りが悪化し、景気後退感が強まっている」（各種商品）「年末商戦は苦戦中」（各種商品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「電器店ではデジタル関連商品が売れている」（各種小売）といった声はあるものの、「食材を中心に年末需要はあるが、全体的に低調」（百貨店）との声や、「気温が低下せず、コート、ジャケット、その他冬物防寒衣料の動きが鈍いため、衣料部門の落ち込みが激しく、年内は期待できない」（百貨店）「暖冬により冬物商品の売れ行き不調。客足の減少が顕著で、厳しい状況が続いている」（商店街）と暖冬の影響を訴える声が寄せられている。

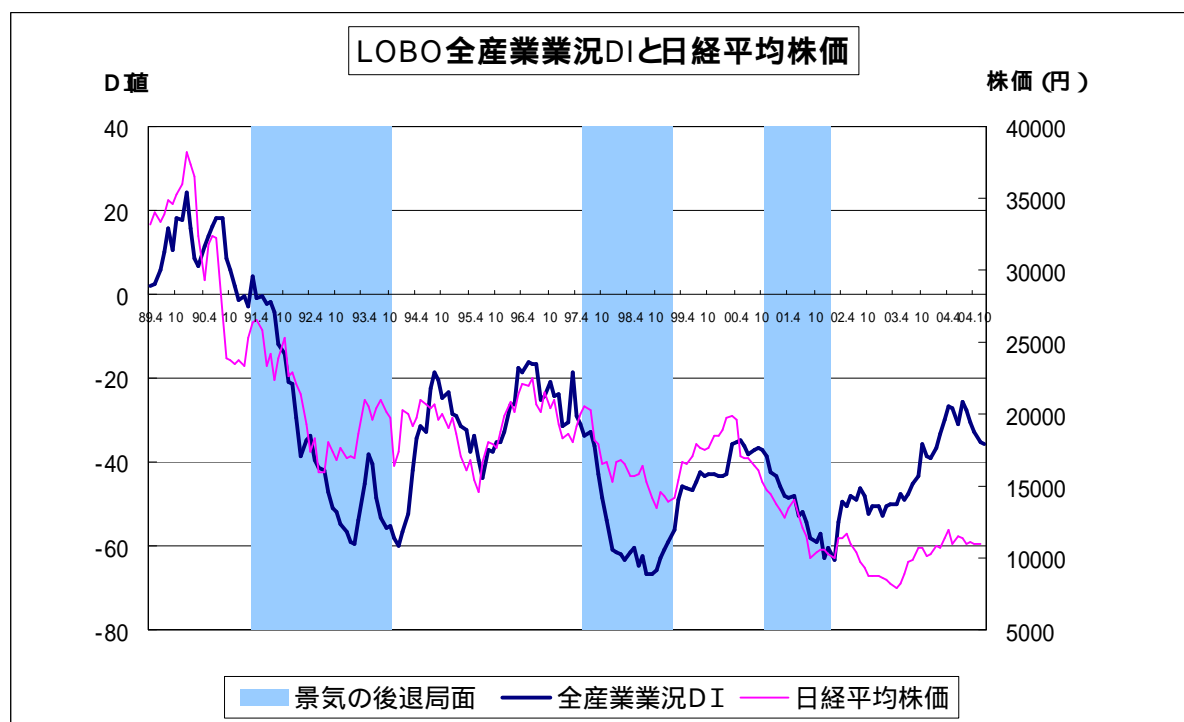
【サービス業】では、「野菜や米も、ほぼ例年通りの価格に戻り、忘年会などの宴会も予想より多く、ますますの売上を保っている」（一般飲食店）「少しずつだが業況は上向いてきている」（食堂、レストラン）との声の一方、「今月は好調の兆しが見えてはいるが、先行きは依然不透明」（すし店）「忘年会は例年より低調」（食堂、レストラン）といった声や、「露天風呂付き客室や大浴場などの設備を拡充したところは人気がある」（旅館）と同業者間で二極分化が見られるとの声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く 3 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 0 . 8 ポイント拡大して 3 0 . 3 となり、5 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く 3 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 0 . 4 ポイント拡大して 3 4 . 7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月 ( 1 月 ~ 3 月 ) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I ( 今月比ベース ) が 3 5 . 4 と、昨年同時期の先行き見通し ( 3 5 . 7 ) の水準に近付いている。

景気に関する声、当面する問題としては、製造業を中心に業況は好調との声がある一方、引き続き公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰による仕入コストの上昇のほか、暖冬による冬物商品の売上不振を訴える声が多く見られた。



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（35.0）よりマイナス幅が0.9ポイント拡大して35.9となり、5カ月連続でマイナス幅が拡大した。

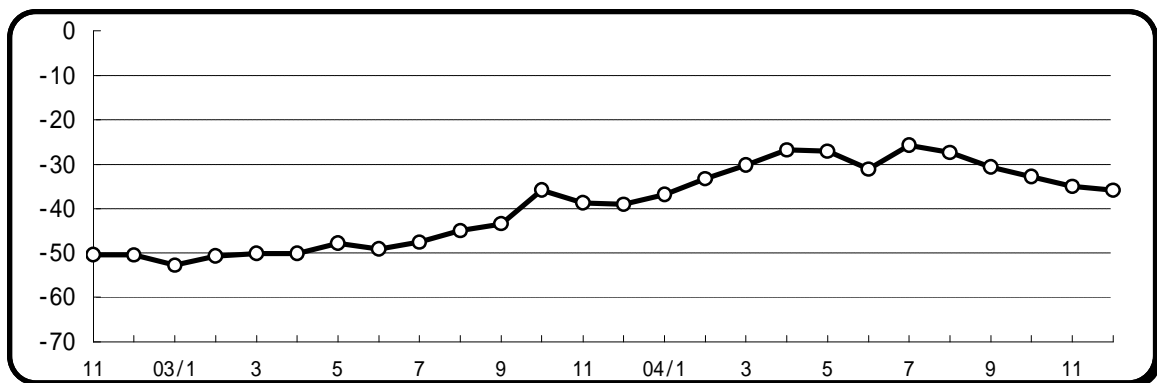
向こう3カ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が35.4と、昨年同時期の先行き見通し（35.7）の水準に近づいている。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	25.7	27.4	30.6	32.8	35.0	35.9	35.4 ( 35.7)
建設	49.1	43.7	42.1	48.1	47.1	47.3	46.7 ( 53.5)
製造	8.5	14.6	18.4	16.6	15.6	20.2	27.0 ( 28.2)
卸売	28.0	33.7	34.5	31.3	26.5	35.6	31.4 ( 36.6)
小売	30.0	31.5	33.6	37.2	43.6	46.3	40.0 ( 36.5)
サービス	22.2	22.4	31.2	35.2	41.0	33.1	33.0 ( 30.4)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年12月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

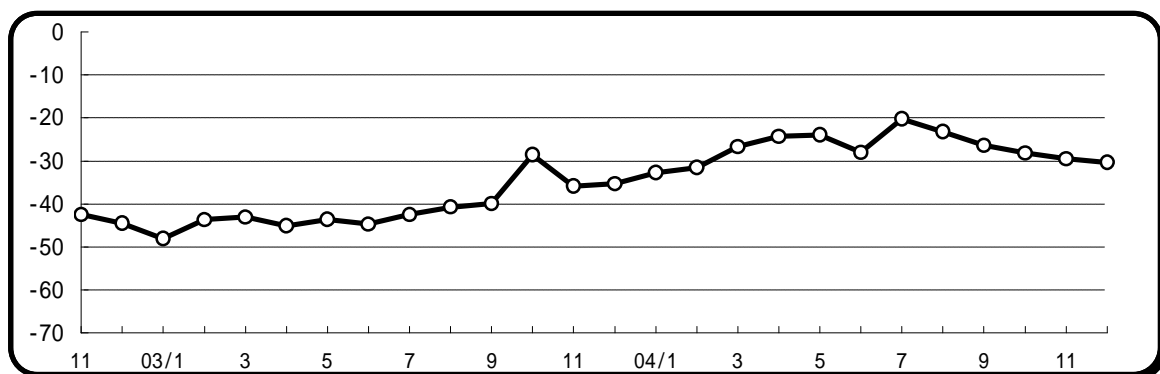
売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く 3 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 0.8 ポイント拡大して 30.3 となり、5 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月(1 月～ 3 月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上 D I (今月比ベース)が 32.2 と、昨年同時期の先行き見通し( 32.2 )の水準に並んでいる。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	20.2	23.2	26.4	28.2	29.5	30.3	32.2 ( 32.2)
建設	44.6	38.8	35.1	43.1	39.6	44.5	41.0 ( 50.4)
製造	0.4	8.1	10.8	4.0	5.4	11.1	21.4 ( 22.0)
卸売	20.1	29.5	34.5	28.3	26.5	21.3	33.5 ( 37.2)
小売	25.8	28.2	31.1	37.3	39.9	44.8	37.1 ( 34.7)
サービス	19.1	20.0	28.6	33.3	37.3	27.7	31.7 ( 25.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

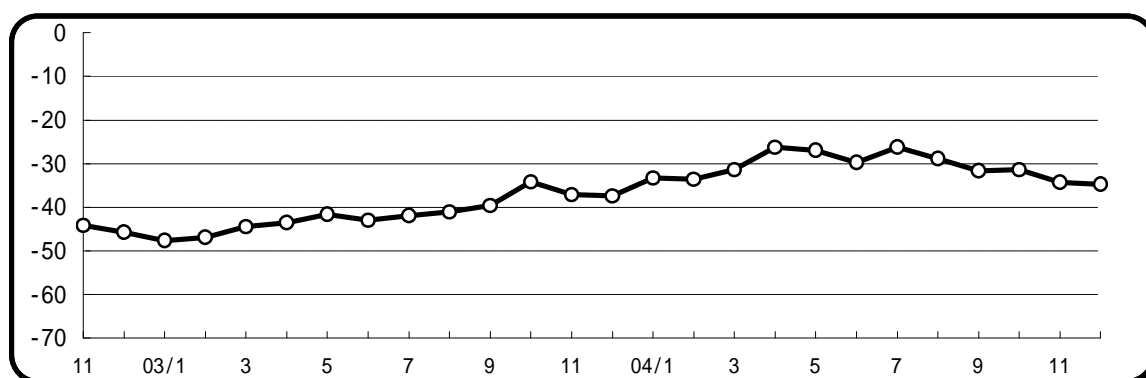
採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く 3 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 0.4 ポイント拡大して 34.7 となり、2 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月(1 月～ 3 月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算 D I (今月比ベース)が 33.2 と、昨年同時期の先行き見通し( 31.5 )に比べて悪化している。

採算 D I (前年同月比) の推移

	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	26.2	28.8	31.6	31.4	34.3	34.7	33.2 ( 31.5)
建設	52.1	45.5	48.7	45.9	47.1	47.4	43.2 ( 51.4)
製造	17.1	23.8	24.4	22.9	22.2	27.5	28.6 ( 27.6)
卸売	21.3	31.3	27.4	22.9	25.3	24.4	24.5 ( 32.9)
小売	22.8	28.1	29.1	31.9	36.5	42.3	36.3 ( 28.0)
サービス	24.7	22.6	32.8	33.5	39.6	29.0	31.2 ( 25.8)

《採算 D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	20.5	20.0	21.2	21.7	24.6	24.0	25.2 (26.7)
建設	40.8	36.5	36.1	37.8	43.7	38.8	37.1 (42.2)
製造	14.7	16.2	16.3	15.5	16.5	20.7	25.0 (24.4)
卸売	14.2	16.8	17.4	16.4	23.6	18.5	18.1 (25.0)
小売	17.4	16.0	19.1	19.8	21.6	22.0	21.6 (23.7)
サービス	17.7	17.3	19.6	20.7	23.1	21.3	24.5 (23.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造、小売を除く3業種で悪化超感が弱まったため、全産業合計でも4カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】製造、サービスを除く3業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	15.1	14.1	16.5	21.2	22.8	19.9	15.6 (5.1)
建設	24.1	21.5	23.1	27.8	28.8	25.4	23.0 (4.0)
製造	32.1	31.2	35.7	33.7	37.5	33.9	25.3 (14.6)
卸売	12.3	6.0	14.6	18.7	22.9	22.6	19.0 (0.6)
小売	1.8	2.7	3.0	9.6	9.3	6.7	5.9 (1.6)
サービス	7.9	8.2	8.4	18.0	19.3	15.6	10.2 (6.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で上昇超感が弱まったため、全産業合計でも4カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	6.2	6.2	5.3	6.1	5.4	6.9	9.9 ( 12.0)
建設	27.6	25.6	23.0	22.0	23.6	23.8	22.0 ( 28.1)
製造	3.6	6.2	3.2	5.0	3.2	6.0	12.4 ( 13.7)
卸売	6.7	7.2	9.7	10.8	7.8	9.4	10.2 ( 12.5)
小売	1.0	0.8	2.0	1.4	1.4	3.1	5.1 ( 6.7)
サービス	0.5	1.2	2.3	0.2	2.7	0.0	4.1 ( 5.0)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】サービスを除く 4 業種で過剰超感が強まったため、全産業合計でも 2 カ月ぶりに強まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。



## 【平成16年12月の景気キーワード】

### 悪化への懸念

各業種から、業況の悪化傾向を訴える声が多く寄せられている。「公共工事の受注減少と一般工事の採算悪化で厳しい状況が続いている」(美濃加茂・一般工事)「自動車関連の動きは非常に良いが、特に半導体設備関係と中国向けの建機等はかなり悪化してきており、全体の業況を圧迫し始めている」(高崎・金物類製造)「歳末の売り出し後も、今一つ業況に盛り上がりや欠く状態が続いている」(焼津・農畜産水産物卸売)「小売業の業況は上昇してきたが、ここに来て、年末のお歳暮の時期にもかかわらず、あまりパツとしない状況になっている」(藤枝・各種小売)「忘年会シーズンで業界として最も忙しい時期だが、昨年と比べて客数、客単価、売上が全て減少しており、年末という雰囲気を感じられず厳しい状況」(静岡・バー、飲食店)といった声や、「受注の先行き減少が予想される一方、原材料価格はじりじりと上がっている」(北上・電気機器製造)と、引き続き仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

### 回復への動き

製造業を中心に、業況は引き続き好調との声も寄せられている。建設、製造からは、「新潟県中越地震の復旧工事等で多忙を極めている」(長岡・電気工事)「受注は増加してきている」(焼津・一般産業用機械)「一部に低調なところもあるが、全体的には活況で、設備も増やす方向に向かわざるを得ないような状況」(松任・通信機械器具)「今月も好況で、新規設備投資の予定もあり、周辺の製造業はほとんどが元気な状態」(水戸・金属加工機械製造)「ユーザーの鋼材需要が堅調」(呉・製鉄)といった声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「これまでの天候不順による野菜不足は解消され、市場の品揃え、数量、価格とも安定し、飲食店からの引き合いも増えている」(浦安・農畜産水産物卸売)「お歳暮の動きは順調に推移」(松山・百貨店)「年末納期のシステム受注が多かったため好調」(札幌・ソフトウェア)との声が寄せられている。

### 暖冬の影響

今月は、各地から暖冬の影響についての声が寄せられている。「暖冬のため、暖房器具関係は生産調整している」(加茂・金属加工機械)「冬物衣料、特にコート類はさっぱり売れていない」(檀原・百貨店)「防寒商品が極端に不振で、見切りセールの前倒し傾向により利益面も厳しい状況になると予想される」(桐生・各種小売)「暖かい日が続く、冬の食材が今ひとつ売れていない」(柏・各種商品卸売)「食肉、水産物など鍋物材料の売上が減少」(亀田・各種小売)と、冬物商品の売上不振を訴える声が寄せられている。一方、「暖冬により宿泊客が増え、レストランも好調」(京都・旅館)とのコメントも見られた。

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
16年10月	回復への動き	景況感格差	天災
11月	回復への動き	悪化への懸念	
12月	悪化への懸念	回復への動き	暖冬の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「水害復旧工事が増加」(土木工事)との声はあるものの、「官庁工事が減少しており、下請工事は採算の合わない案件が多く、積極的に受注活動を展開できない」(建築工事)「年末を迎えても受注減が続き、冬季の仕事量も皆無に近く、今後さらに厳しい経営環境になる」(建築工事)「受注が少なく人員整理が進んでいる」(建築工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられているほか、「燃料、建設資材価格の高騰により、採算が悪化」(一般工事)と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、採算D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「前月に続き受注は順調」(自動車、同附属品)「概して仕事量は多く、操業度も高水準で維持されており安定した状態」(金属加工機械)との声の一方、「原材料の値上がり傾向は根強いが、製品への転嫁はできていない」(有機化学製品)と、引き続き仕入コスト上昇を訴える声や、「業況改善は早くもピークを迎えた感じ」(金属加工機械)「半導体市場は調整局面を迎え急激に環境が変化しており、先行きも供給過剰な状況で市場の大きな成長もなく、一層厳しい状況が予想される」(電子部品)「年末需要期となっても受注量が減少しており、末端の消費物流の動きが弱い」(水産食料品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「購買意欲が少しずつ出てきている」(農畜産水産物)「台風の影響で野菜、果実とも入荷量が減少していたが、果実を除き順調に回復し、価格も例年並みで移行している」(農畜産水産物)といった声がある一方、「売上はほぼ前年並みで推移しているが、採算、資金繰りが悪化し、景気後退感が強まっている」(各種商品)「年末商戦が苦戦中」(各種商品)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも5カ月連続でマイナス幅が拡大した。「12月に入り客足はますますで、先行きも期待できそう」(各種小売)「電器店ではデジタル関連商品が売れている」(各種小売)といった声はあるものの、「食材を中心に年末需要はあるが、全体的に低調」(百貨店)との声や、「気温が低下せず、コート、ジャケット、その他冬物防寒衣料の動きが鈍いため、衣料部門の落ち込みが激しく、年内は期待できない」(百貨店)「暖冬により冬物商品の売れ行き不調。客足の減少が顕著で、厳しい状況が続いている」(商店街)と暖冬の影響を訴える声が寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは5カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「野菜や米も、ほぼ例年通りの価格に戻り、忘年会などの宴会も予想より多く、ますますの売上を保っている」(一般飲食店)「少しずつだが業況は上向いてきている」(食堂、レストラン)との声の一方、「全体的な業況は比較的良いと思われるが、長続きはしなさそうな見通し」(旅館)「今月は好調の兆しが見えてはいるが、先行きは依然不透明」(すし店)「忘年会は例年より低調」(食堂、レストラン)といった声や、「露天風呂付き客室や、大浴場などの設備を拡充したところは人気がある」(旅館)と同業者間で二極分化が見られるとの声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、関東、近畿、四国でマイナス幅が縮小したが、他の5ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも5カ月連続で拡大した。

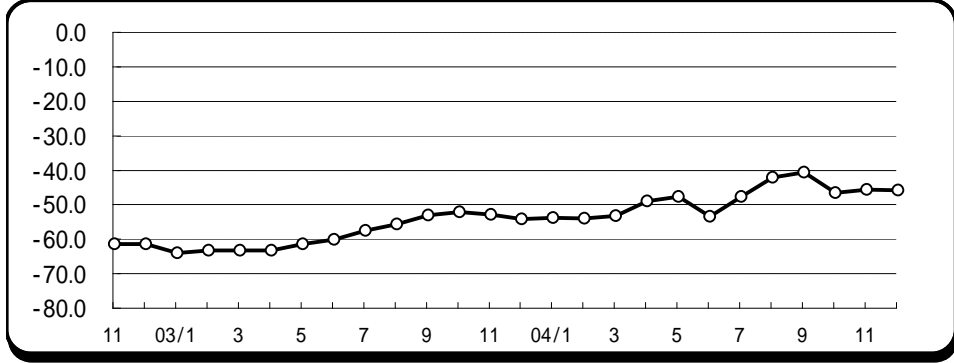
ブロック別の向こう3カ月(1月~3月)の業況の先行き見通しは、北海道、北陸信越、関東、中国、四国で昨年同時期と比べて悪化したが、東北、東海、近畿、九州で改善したため、全部ブロック合計でも若干改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

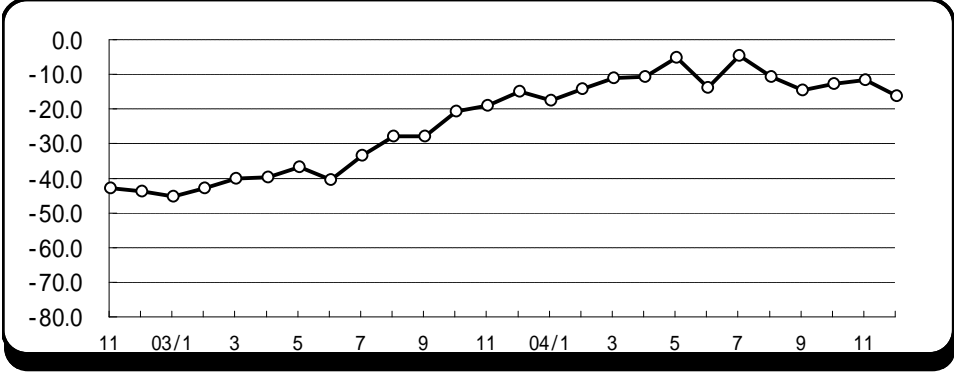
	16年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全 国	25.7	27.4	30.6	32.8	35.0	35.9	35.4 ( 35.7)
北海道	28.7	28.1	28.4	23.7	33.3	39.7	43.8 ( 37.0)
東 北	31.1	30.7	35.9	37.9	42.3	50.3	45.8 ( 48.3)
北陸信越	27.4	22.0	35.0	33.1	37.3	34.3	38.8 ( 35.8)
関 東	22.1	23.0	23.0	27.0	31.6	30.0	28.1 ( 27.4)
東 海	18.8	24.3	23.4	20.0	23.7	27.3	29.0 ( 31.0)
近 畿	28.2	34.3	35.4	37.5	40.8	35.9	37.0 ( 44.0)
中 国	26.7	30.3	33.3	42.1	31.8	40.4	37.0 ( 35.9)
四 国	31.7	36.2	43.4	49.3	42.2	40.4	39.5 ( 36.3)
九 州	23.3	24.1	29.3	33.2	35.2	37.8	34.1 ( 34.2)

# 業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

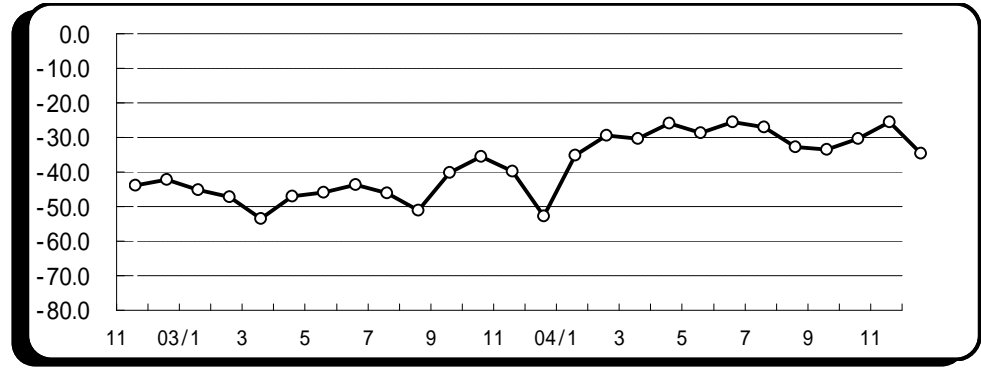
## 建設業



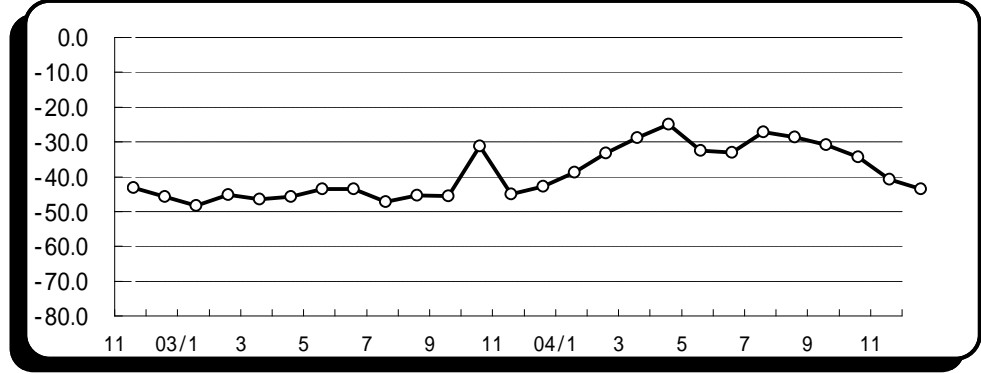
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

